軍旗を護るものゝふたちは、骨を粉にし身を碎いて一意奮勵努力し、團結は日一日と强化されて行つた。我々はかくしてとゝに全く必勝の態勢をとゝのへた。

第二節　大東亞戰爭

太平洋波高し

こうして我々が默々として有事の日に備へて猛訓練にいそしんでゐる間に、我が國をめぐる國際情勢は日一日と緊迫の度を加へつゝあつた。昭和十五年九月二十三日の日佛協定による皇軍の佛印進駐、同年十一月三十日の日華基本條約の締結、同十六年三月十一日のタイ・佛印國境紛爭の調停成立等と、東亞永遠の平和確立のための我が國のあらゆる努力も、イギリス、アメリカを主班とする敵性國家群によつて故意に歪曲されてしか理解されなかつた。暴力と僞瞞とによつて獲得した、東亞に於けるいはゆる特殊權益を失ふことを極度に恐れた彼等は、我が國に侵略者の烙印を捺すことによつて自己を防禦しようとした。しかし彼等の「正義」と「自由」とを身を以て體驗した大東亞の住民たちは、口に出しては云へなかつたものゝ、我が國の眞意を諒解するに吝かでなかつた。彼等は心では日本の蹶起を待望し、日本による指導を待ち焦がれるに至つた。

この我が國の平和的進出に對して、あくまで頑迷固陋なイギリス、アメリカの指導者たちは、あらゆる敵性行爲を以て應へた。そしてタイを脅迫し、佛印を威嚇し、更に蘭印を使嗾し、又彼等自身の東亞及び太平洋に於ける軍事基地の强化に狂奔して、對日包圍陣の結成を企てるに至つたのであつた。

英米兩國による對日壓迫は、昭和十六年七月、日佛共同防衛協定成立し日本軍が南部佛印に進駐してからは、全く假面

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

をぬぎ捨てた。既に道義的禁輸から屑鐵の禁輸、石油の積出禁止へと進んで來たアメリカは、こゝに於て遂に資金凍結による對日經濟斷交を敢行した。イギリスは無定見にもこれに倣つた。次で兩國は蘭印並びにビルマを威嚇して同樣の擧に出でしめ、更に八月六日には對日共同宣言を行つて日本を牽制せんとした。

我が國はこれに對して、太平洋の靜謐こそ世界平和の基礎たるを思ひ、八月二十八日近衛首相は野村大使を通じてルーズヴェルト大統領に宛てゝメッセージを送り、日米相携へて世界恒久の平和確立に貢獻せん旨を申し送つた。しかし彼はこれに對して何等の回答をなさゞるのみか、かへつて反樞軸國家群の陣營强化に狂奔するのみだつた。ABCD對日包圍陣なる言葉が新らしく登場した頃、彼等侵略國の間には重要な軍事會談が相次で開かれ、軍隊の移動が頻繁に行はれた。

かくの如く太平洋の危機が一歩々々近づきつゝある間に世界は二つの大きな事實を目擊した。言ふまでもなく日ソ中立條約の締結と獨ソ開戰とである。

東洋平和ひいては世界平和に貢獻せんため、我が國の主動によつて一つの劃期的な條約が出來上つた一方、同じく世界平和のためと稱へられた一つの條約が、反古紙となつて捨てられたのである。

大詔渙發

昭和十六年十二月八日早朝、日・英米開戰のニュースが全世界の耳を打つた。我が國の平和的意圖は遂に蹂躙された。こゝに於て我が國は自存自衛のため、將又世界恒久の平和の確立のため蹶然起つてこの二大帝國主義國に立ち向つたのである。

十一時四十分、畏くも宣戰の大詔が渙發された。

0569

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二時　「君が代」の奏樂に續いて

詔書　を捧讀するアナウンサーの聲は、感激に打ち震へてゐた。次で東條首相の謹話、政府の聲明、對米覺書及び對米交渉經過の外務省發表、續いてハワイ大奇襲作戰とコタバル上陸との成功を報ずる臨時ニュース等々！我々一同は一言一句も聞き洩らすまいと、全神經を耳にしてラヂオを取圍み、しがみついてゐた。

翌九日、西廣場に於て、宣戰の

詔書　並びに陸海將兵に賜りたる

勅語　の捧讀式が擧行された。

長い間、何か頭の上に蔽ひかぶさつてゐたような重みが、今やすつかり取除かれた。全國民は晴れやかな氣持で毎日毎日を迎へることゝなつた。我々も清く明るく新らしい氣持ちで、その日〳〵の演習勤務に突進して行つた。この聖戰下、躍進日本の一員として、又皇軍の一員として榮光を荷ふ我々は、今ぞ限りない前進をつゞけて行くのだ。

南方に於て連戰連勝、輝く戰果を收めつゝある將士の華々しさとちがつて、我々の任務は地味である。言ふまでもなく我々の任務は北邊の守りにある。滿ソ國境の防衛と滿洲國の治安維持とにある。

現在日ソ間は中立條約によつて結ばれ、英米兩國のあらゆる策動にも拘らず、當局者の談によれば日ソ兩國の國交は友好的關係にある。あれほど熾烈に戰はれたノモンハンの國境紛爭も、昨年十月十五日、議定書の調印によつて最終的の解決を見た。

さりとて、北邊の護りに任ずる我々の責務はいさゝかも輕くはならない。ソヴイエート聯邦がイギリス、アメリカと相提携して、我が同盟國ドイツ及びイタリアと戰つてゐるといふばかりではない。印度問題をめぐつて、日ソ間に複雜微妙な空氣がかもし出される可能性もないとはいへない。世界赤化が窮極の目的であることは今日に於ても變りがないこと

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を銘記すべきである。又獨ソ戰の見透しも早急には出來がたい情勢にある。世界情勢の「複雜怪奇」なること、到底獨ソ不可侵條約締結當時の比ではない。

大東亞戰爭こそは、實に二十世紀に於けるコペルニクス的轉回である。

想起せよ、昭和十六年十二月八日のあの感激を！この日から世紀の黎明が全世界に訪れたのである。

今まで帝國主義の爪牙のもとに壓服されてゐた人類が、今や二本の足で立上つて、「正義」と「眞理」との支配する新らしい世界へ堂々の進軍をはじめたのだ。指揮棒をふるものは我が大日本帝國である。

人類がかつてなした偉大なる事業の總體よりも、より以上の偉大なる事業が、今こそ我々大和民族の手によつて着手されたのだ。それは神が我々に與へ給うた大事業である。これが完遂のため、水漬く屍、草むす屍と、天業を翼賛し奉るのが我々に與へられた大使命である。

上御一人　を中心に、上下一致してこれを果すこそ、實に八紘一宇の大理想顯現そのものである。その意味に於てこの聖戰こそは實に神業である。聖なる哉、皇國の大理想！尊なる哉、皇國の大使命！

聖戰下に第四十四回の　軍旗拜受記念日を迎ふ

昭和十七年三月一日、こゝ滿洲國は建國十周年の佳き日を迎へた。見よ、皇國を親邦と仰いだこの國の隆々たる發展を。滿洲事變當時三千萬に過ぎなかつた人口は、今や四千三百萬を算するに至つた。この國に訪れた平和と秩序とを慕つて來り住むものは愈々多い。滿洲名物の觀のあつた匪賊も、今や殆どその跡を斷つた。產業の發展も著しく、我が國の大東亞戰爭遂行のためにあらゆる援助が送られてゐる。僻村に至るまで皇化に浴して榮え行きつゝある。

0571

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

然り！我が國に逆ふものは必ず滅び、我が國と共に歩むものは常に榮えるのである。新生中華民國もその通り。而して大東亞共榮圏内の住民も、我が國の大事業に協力することによつて、平和と福祉とをその手に握ることが出來るのである。

今こゝに第四十四回
軍旗　拜受記念日を迎へ
軍旗　を仰いで感激一入新たなるものがある。我々は
軍旗　を中心に、軍人に賜りたる
勅諭　を心に刻み、今般下されたる
大詔　並びに
勅語　に示されたところを肝に銘じて、聖戰完遂のため
上御一人　の御ために死する覺悟をいよ〳〵強くしなければならない。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp